

『第3回(仮称)「漱石山房」記念館整備検討会』の報告

10月20日(日)午後、第3回検討会として、特別委員を除く26名の検討委員のうち25名の参加により、都内の類例の記念館等3施設を訪問し、施設や展示の見学を行いました。

小平市平櫛田中彫刻美術館

藤井学芸員より、彫刻家・平櫛田中と小平市との関わりや美術館整備の経緯などについて話を伺った後、記念館及び展示館を見学しました。

建築家・大江宏が設計した旧居を活用した記念館では、アトリエや寝室など一部の居室を当時の姿のまま残し、その他の部屋は改修し、展示室として作品の展示を行っています。

後に整備された展示館は、地下一階地上二階の建物で、5つの展示室には、平櫛田中の彫刻作品が展示されているほか、映像コーナーやミュージアムショップなども併設されています。



見学風景

大田区立尾崎士郎記念館

大田区山王の閑静な住宅街にある尾崎士郎記念館は、通常は無人の施設で、屋外から建物内部を見学します。

書齋を囲む建物の南面と東面は、床まである掃き出しのガラス戸により開口部を大きく取った開放的な意匠で、庭と一体となった心地よい空間で尾崎士郎が執筆していた様子が偲ばれます。



見学風景

ガラス戸の内側には背の低い展示ケースが置かれ、作家の遺愛の品や原稿、著作などが展示されています。

北に面した窓からは、尾崎士郎の生涯をつづった年表や書庫に並んだ蔵書、壁に掛けられた写真などを見学することができます。

大田区立山王草堂記念館

尾崎士郎記念館からほど近い、徳富蘇峰の旧居跡に整備された蘇峰公園の中に、山王草堂記念館があります。大正十三年から二十二年に近くにわたり、蘇峰が暮らした旧居・山王草堂の二階の書齋部分を保存し、展示室内で復元公開しています。

書齋は、十畳二間と四畳半及び廊下で構成されており、執筆を行った机の上には、資料や愛用の文具などが置かれています。

そのほか、展示室内に置かれた展示ケースでは、原稿や書簡、遺愛品などの資料が展示されています。

加えて、山王草堂の玄関部分も復元されているため、建物の外観は、新築でありながら、古い日本家屋の風情を醸しています。



見学風景

委員の感想・意見

- ・今日の見学を通して一番感じたのは、施設までの案内が大事であること。山王草堂記念館はとても工夫されており、漱石山房でも配慮をすべき。
- ・漱石山房では、観光バスで来館するための場所が必要。今日、周辺を歩いている方に「いろいろな方が来て迷惑ではないか」と聞いたら、「誇りを持って」とおっしゃられ、うれしく感じた。
- ・敷地に公園部分を残すことが前提なので漱石山房を別に建てるより、記念館の中にベランダや居間や書齋をうまく組み込んで建てたほうがいい。
- ・作家がどういう場所で生活し、作品を作り、どういうものに囲まれていたかを体験し雰囲気を感じ味わえるのが、一番面白いところ。3施設のうち、山王草堂記念館が一番強烈に雰囲気を感じた。
- ・平櫛田中彫刻美術館のように、建物がそのままの状態で見学されているのは見応えがあるが、尾崎士郎記念館ではかつての姿が極力再現されているとはいえず、やはり新築ではそれほど感動をもたらさない。漱石山房も建物は新築なので、なにか呼び物になるものが必要。

- ・漱石山房といえば『硝子戸の中』。この情景を体感できるよう、漱石の書齋の中に入れるようにし、ガラス戸の内から外を見る、外から内を見るとき、両方の体験ができるとうい。
- ・近くの早稲田大学との連携により、様々な企画を継続的に行えるとうい。

- ・誰もがいつでも漱石を勉強できる、また漱石に関心を持って全国から集まれるような企画や運営に力を入れてほしい。

- ・子どもたちが楽しめる企画や、学校団体の来館を促進する工夫などを行うべき。